



「廊下を走らない集会」

廊下を走らないことを子どもたちに徹底することは、学校の永遠の課題です。走りたくなる子どもたちの気持ちも分からなくはないのですが、廊下を走るとやはり危険が伴います。そこで学校としては、安全上の配慮から、子どもたちが走らないようにとあの手この手を講じるわけです。

昨年は、「折鶴作戦」を決行しましたが、あえなく惨敗。昨年の1・2年生は学級会で話し合い、「やくそくまもロード」という名前をつけたりもしてくれました。しかし、やたらと元気な1年生も入学し、他の学年も昨年のやくそくはどこへやら、最近、廊下は無法地帯に……。これではいけないということで、この集会が開かれたというわけです。

会では、「なぜ廊下を走ってはいけないのか」というクイズを織り交ぜた寸劇の発表や、ハッピーブックフレンド（図書委員会）からは、廊下を走らないことを題材にした本を作成したことなどのお知らせがありました。また、5年生からは学級会で話し合ったことの発表もあり、廊下を走ってはいけない理由について全校で改めて確認することができました。

実はこの集会、6年生が学級会で話し合い、全校集会を行ったほうがよいということになり企画してくれた集会だったということです。さすが最高学年。全校のことを考え、自主的に企画し実行してくれたことに拍手を送りたいと思います。さて、その効果は如何に……。



6年生による寸劇の発表

「七夕集会」～子どもたちの願い事が叶いますように～

明日、7月7日は七夕です。本校では毎年、用務員の〇〇さんが笹竹を準備してくれ、それに子どもたちが願い事を書いた短冊をつけています。一人一人の願い事を見るのも楽しいものです。

七夕に願い事をするというのは、中国の「乞巧奠（きこうでん）」という風習からきているそうです。昔、中国では、7月7日に、織女星にあやかり、女性の大切な仕事であるはた織りや裁縫が上達するようにと祈りを捧げる行事がありました。初めは、祈りの中心ははた織りや裁縫だけでしたが、祈りの内容が時とともに芸事や書道の上達などさまざまな内容に広がっていきました。この乞巧奠（きこうでん）という行事が平安時代に日本に伝わり、七夕に願い事をするという風習へと変化したということです。



なかよしグループで短冊を飾る子どもたち

今年も〇〇さんが子どもたちのために笹竹を5本用意してくれました。短冊が付けられた笹竹は、体育館に飾っています。お子さんがどのような願い事を書いたのか、PTAのときにでも是非ご覧いただきたいと思います。